

序 なぜ《日本書紀一三〇〇年》を問うのか……………山下久夫  
斎藤英喜 viii

I 古代

第一章 成立前後の日本書紀……………関根 淳 3

一 神代巻の構造と「一書」

二 書紀所引の諸本と異本

第二章 天文異変と史書の生成——舍人親王の作品としての『日本書紀』……………細井浩志 22

一 『日本書紀』の天変

二 『日本書紀』天変記事の原資料に関する考察

三 小墾田宮の伝領と天変記録の伝来・集積

第三章 日本書紀と殯宮儀礼——モガリ（殯）のアルケオロジ―……………呉 哲男 47

一 殯宮儀礼とは何か

二 モガリ（殯）の考古学的発掘

- 三 日本書紀にみる殯宮儀礼
- 四 モガリ（殯）空間の創出
- 五 殯宮儀礼の再定義

〈研究ノート〉

日本書紀とシャーマニズム……………アンダソヴァ・マラル 65

## II 中世

第四章 『釈日本紀』、『日本書紀纂疏』から『神書聞塵』へ……………斎藤英喜 79

——中世における〈注釈知〉の系譜をもとめて

- 一 「日本紀之家」の始発として——『釈日本紀』
- 二 室町の学知の爛熟——『日本書紀纂疏』
- 三 あらたな「神道」の創生へ——『神書聞塵』

第五章 『八幡宇佐宮御託宣集』の「神代」と「日本紀」……………村田真一 101

- 一 八幡信仰と日本紀の中世の交点へ——研究史と課題
- 二 『託宣集』における「日本紀」(1)——祭祀顕現の起源
- 三 『託宣集』における「日本紀」(2)——異国降伏の起源と応神天皇
- 四 『託宣集』における「神代」説

第六章 伊勢の日本紀——道祥と春瑜の『日本書紀私見聞』をめぐる………星 優也 122

- 一 中世日本紀としての『日本書紀私見聞』
- 二 春瑜本の神話世界
- 三 伊勢の日本紀——道祥本の達成

第七章 神仏を生む中世の神代卷………松本郁代 145

- 大日靈貴から天照、大日靈から大日如来へ
- 一 大日如来の本地化と「大日靈貴」
- 二 訓みにみる「大日靈貴」の姿
- 三 皇祖神から伊勢皇太神への変容

第八章 中世神学と日本紀——一三〇一四世紀における至高の神と靈魂の探求………小川豊生 164

- 一 「俗神道」と「一神」
- 二 麗気神学と天空の神
- 三 〈狭霧の神〉の建立——度会家行と慈遍の神学
- 四 神をつくる靈——靈魂一元論と本地垂迹思想の解体

〈研究ノート〉

スサノヲの「悪」をめぐる……鈴木耕太郎

——『釈日本紀』から『日本書紀纂疏』の変遷を考える

### Ⅲ 近世

第九章 「附会」と「考証」のあいだ——垂加神道の『日本書紀』解釈……齋藤公太

一 神代卷の不可解さ

二 「土金」と皇統

三 「天人唯一」の振幅

四 古言と古事

第一〇章 忌部正通『神代卷口訣』と忌部神道……伊藤 聡

一 忌部正通の『神代卷口訣』

二 忌部神道と広田担斎

三 八箇祝詞について

四 忌部神道と垂加神道

五 『色弗口訣』と今出河文斎

第十一章 近世儒者の神代卷批判と「神道」「上古」——鈴木貞斎に即して……松川雅信

一 神代卷批判

二 「上古」における「神道」

三 「神道」提唱の同時代的意義

第二章 宣長『古事記伝』と重胤『日本書紀伝』——起源神話の創造として……山下久夫 274

一 宣長『古事記伝』の神話創造と日本書紀

二 重胤『日本書紀伝』の起源神話創造

第三章 近世日本における「天壤無窮の神勅」観……前田 勉 314

一 第一期 初期儒家神道

二 第二期 垂加神道

三 第三期(一) 本居宣長

四 第三期(二) 平田篤胤学派

五 近代の「国体」神話

#### IV 近現代

第四章 初期ジャパノロジストと日本書紀の翻訳……平藤喜久子 339

一 宗教学、神話学の草創期と翻訳

二 レオン・ド・ロニのフランス語訳

三 アストンの英訳

四 フローレンツのドイツ語訳

第五章 教派神道の『日本書紀』解釈と朝鮮布教……………権 東祐 363

——佐野経彦の「建白書」を中心に

一 近代神道の世界宗教志向

二 再生する中世神話

三 『日本書紀』と朝鮮半島

四 檀君との習合

五 佐野経彦の神話解釈と朝鮮布教

第六章 読み替えられた『日本書紀』の系譜と折口信夫……………斎藤英喜 384

一 「日本紀」講義と折口学——「希客者」の訓みをめぐって

二 「国文学の発生」と『日本書紀』解釈

三 「大嘗祭の本義」と真床襲衾の解釈史

第七章 近代歴史学のなかの『日本書紀』——建国神話を中心として……………田中 聡 407

一 「神代」と「人皇代」の同列視（一八八〇年代）

二 人民史・国民史としての「神代史」（一九一〇年代）

三 氏族共同体と英雄の物語（一九三〇～五〇年代）

あとがき

索引

執筆者紹介

# 序 なぜ『日本書紀一三〇〇年』を問うのか

山下久夫  
斎藤英喜

## はじめに

養老四年（七二〇）に成立した『日本書紀』は、本年（二〇二〇）、一三〇〇年目を迎える。八年前の《古事記一三〇〇年》のときは、一種の「古事記ブーム」が沸き起こり、さまざまな出版や展示会、イベントなどが続いたが、残念ながら『日本書紀一三〇〇年』が一般の話題にのぼることは少ないようだ。『古事記』の場合は、本居宣長の『古事記伝』による「古代日本」の発見という言説と相乗し、喪失した「日本」に対する自信を取り戻すという議論とも結びついた。とりわけ前年の二〇一一年三月十一日の東日本大震災によって傷ついた日本の復興・再生と重ねられ、語られてきたことも見過ごせないところだろう。

しかし歴史を遡ってみるならば、『古事記』よりも『日本書紀』のほうが、圧倒的に長い時代にわたって書写され、読まれ、注釈・研究されてきたことはたしかである。その始発は養老五年（七二二）から康保二年（九六五）まで、ほぼ三〇年ごとに行われた、朝廷主宰の『日本書紀』講義Ⅱ日本紀講に始まり、それを引き継ぎ展開、発展させた卜部家や一条家の注釈、一方に天台・真言系僧侶たちによる注釈・研究が続き、江戸時代、慶長四年（一五九九）には神代卷の刊本が出ることで、広く社会に流布した『日本書紀』は、儒学者、国学者たちによる注

釈、研究が積み重ねられていく。そして近代に至れば、西洋学問の影響下に成立した、歴史学、神話学、国文学、国語学、民俗学、宗教学などの諸学問による、多様な切り口からの『日本書紀』研究史が続いていくことは、あらためていうまでもないだろう。そこには「古事記」にくらべて、圧倒的な質量をそなえた『日本書紀』の受容、注釈、研究の歴史を見ることができるのである。

しかし、本書はそうした一三〇〇年の歴史を俯瞰し、静態的な『日本書紀』の受容史を記述するものではない。本書が目指すのは、『日本書紀』を読み、注釈し、研究することを通して、それぞれの時代固有の「神話」や「歴史」を創造していく知の運動を明らかにすることにある。

こうした視点を導き出す背景にあるのは、一九七〇年代以降に展開した、中世の『日本書紀』注釈（日本紀注）の再評価Ⅱ「中世日本紀」の研究視点である。従来は、荒唐無稽、牽強附会の説として学問的検討の価値のないものと退けられてきた中世の「日本紀注」のテキスト群は、一九七二年の伊藤正義「中世日本紀の輪郭」（『文学』一九七二年一〇月号）以降、近代的な注釈概念とは異なる、中世固有の知や学問のあり方・ネットワークが掘り起こされ、あるいは「注釈」というかたちをとりながら、原典の『日本書紀』とはまったく異なる、中世独自の神話Ⅱ「中世神話」へと読み替えられる、神話創造の運動が論じられてきた。そして、中世日本紀の研究動向とクロスしつつ、本書の編者・山下久夫と斎藤英喜は、本居宣長、平田篤胤など近世国学者の注釈世界を近世固有の神話Ⅱ「近世神話」として読み直すことで、近代的な視野からは見えてこなかった宣長、篤胤たちの「知」の可能性を探ってきたのである。

本書では、以上の研究動向を踏まえつつ、まずは、『日本書紀』成立期の古代の捉え直し、読みの更新とともに、中世から近世、そして近現代に至るまでのすべての歴史をカバーして、『日本書紀』注釈・解釈・研究のなから、それぞれの時代にどのように「神話」や「歴史」が解釈され、創造されていったかを明らかにしていく

ものである。

したがって本書の執筆陣は、国文学、歴史学、思想史研究、神話学など多領域にわたっている。また本書の想定される読者も、上記の領域と重なり、またそれを上回る複数の領域の研究者、学生、あるいは学問に興味をもつ人びとを視野にしている。本書が、プロパーやジャンル、時代区分のなかに閉塞した学問の現状を乗り越えていくための試金石となることも考えられよう。

あらためて、なぜ《日本書紀一三〇〇年史》を問うのか。それは「日本」や「日本史」をめぐる諸言説を捉え直すとともに、プロパーや時代区分に閉鎖されがちな現在の学問のあり方そのものを問い直す意義をもつからだ。こうした方法的視点からの『日本書紀』の一三〇〇年の歴史を問う論文集も、本書が最初といってよい。

以下、本書に収載された論考をとりあげながら、古代・中世・近世・近現代にわたる《日本書紀一三〇〇年史》を概括していこう。

なお、本書の各論文は、二〇一八年三月三十一日、六月二十三日、九月二十九日、一二月二日、二〇一九年一月二十七日、三月一七日の計六回にわたる研究会での口頭発表と討議とを踏まえて執筆されたものである。

また、この序文のうち、はじめに・I 古代・II 中世・IV 近現代は斎藤の執筆、III 近世は山下の執筆である。各論文を紹介するにあたっては、必ずしも掲載順と一致するわけではないことをお断りしておきたい。

## I 古代

八世紀初頭、和銅五年（七二二）『古事記』と養老四年（七二〇）『日本書紀』との編纂・成立の経緯は、『古事記』和銅五年成立が史実かどうかの検討も含めて、いまにあってもなお多くの議論が続いている。そしてそれとリンクするように、『日本書紀』が記述した神話や歴史が、『古事記』のそれとどのような違いがあるのかという

## あとがき

本書の狙いは序文の「はじめに」で述べた通りだが、いざ編集にかかってみると、その過程は編者にとって密度の濃い時間となった。口頭発表と討議を踏まえたいうえで執筆に取りかかった各論者が、討議によってはじめて問題の所在に気づき、筆を進めながらまた新たな問題がみえてきて試行錯誤する様相に触れることができたからである。今回、編者の特権として論者全員の論考に目を通す機会に恵まれた。一応、本書の主旨を理解した論考であるかどうかを確認するためではあるのだが、実際には、各論者がどのようなところで苦闘しどのような地平に出ようとしているかといった、いわば論文の書かれる「現場」に立ち会っているようで感慨深いものがあつた。苦闘を共有できたような気にさせられた。また、一見時代も分野も異なる各論考のテーマが、読んでいるうちに相互に響き合う音調も聞こえてきて、「共振」という視座にあらためて思いをめぐらした。

一つひとつの論考についての評価は読者の判断に俟つかないが、いたるところで創造的な知の運動という視座からの史料の読み替えや研究史の塗り替えが始まっているものと信じている。そして、各々試行錯誤を繰り返しながらも、結果としてほぼ当初の予定通りに刊行できたことも誇りである。限られた時間を守りながら、己の問題意識に真摯に向き合った各論者の志の高さに敬意を表したい。

最後になったが、思文閣出版の三浦泰保さんに感謝します。三浦さんの適切なアドバイス、粘り強い編集作業がなかったら、本書の予定通りの刊行はおぼつかなかっただしょう。知の運動体を共有していただいて、本当にありがとうございました。

二〇二〇年四月

山下久夫

執筆者紹介（掲載順、\*は編者）

\*山下久夫（やました・ひさお）

1948年生。立命館大学大学院文学研究科博士課程修了，博士（文学）。金沢学院大学名誉教授。  
『篤胤のトボス』（『日本文学』53巻10号，2004年），『秋成の「古代」』（森話社，2004年），『本居宣長』（コレクション日本歌人選，笠間書院，2012年）。

\*斎藤英喜（さいとう・ひでき）

1955年生。日本大学文学研究科博士課程満期退学。佛教大学歴史学部教授。  
『増補・いざなぎ流 祭文と儀礼』（法藏館，2012年），『異貌の古事記』（青土社，2014年），『折口信夫——神性を拡張する復活の喜び』（ミネルヴァ書房，2019年）。

関根 淳（せきね・あつし）

1970年生。上智大学大学院文学研究科史学専攻博士前期課程修了，修士（文学）。富士見丘中学高等学校教諭。

『古代国家の形成と史書』（『歴史評論』809号，2017年），『日本書紀の誕生——編纂と受容の歴史』〔共編〕（八木書店，2018年），『「記紀」以外の古代史書——『大倭本紀』と『仮名日本紀』を中心に——』（『ヒストリア』272号，2019年）。

細井浩志（ほそい・ひろし）

1963年生。九州大学大学院文学研究科博士後期課程（史学専攻）単位取得退学，博士（文学）。活水女子大学国際文化学部教授。

『古代の天文異変と史書』（吉川弘文館，2007年），『日本史を学ぶための〈古代の暦〉入門』（吉川弘文館，2014年），『日本書紀の誕生——編纂と受容の歴史』〔共編著〕（八木書店，2018年）。

呉 哲男（ご・てつお）

1945年生。二松学舎大学大学院中国学専攻博士課程修了，修士。相模女子大学名誉教授。  
『古代言語探究』（五柳書院，1992年），『古代日本文学の制度論的研究』（おうふう，2003年），『古代文学における思想的課題』（森話社，2016年）。

Andassova Maral（アンダソヴァ・マラル）

1982年生。佛教大学大学院文学研究科仏教文化専攻修了，博士（文学）。カザフ国際関係外国語大学講師，早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員。

『古事記 変貌する世界』（ミネルヴァ書房，2014年），『ゆれうごくヤマト——もうひとつの古代神話』（青土社，2020年）。

村田真一（むらた・しんいち）

1978年生。佛教大学文学研究科仏教文化専攻，博士（文学）。佛教大学歴史学部非常勤

講師。

『宇佐八幡神話言説の研究——『八幡宇佐宮御託宣集』を読む』（佛教大学研究叢書，法蔵館，2016年），「八幡神と仏教——放生会言説の出現と展開」（『現代思想』46巻16号，2018年），「八幡神の殺生と利生——『八幡愚童訓』甲本から乙本「放生会事」へ」（『伝承文学研究』68号，2019年）。

星 優也（ほし・ゆうや）

1991年生。佛教大学大学院文学研究科歴史学専攻博士後期課程修了，博士（文学）。池坊短期大学文化芸術学科専任講師・華道文化研究所研究員。  
「中世神話と歴史学——桜井好朗の神話研究をめぐって」（『新しい歴史学のために』293号，2018年），「『神祇講式』と神楽・祭文」（『仏教文学』44号，2019年），「藺牟田神舞「鉾舞」考——中世神道研究の視点から」（『説話・伝承学』28号，2020年）。

松本郁代（まつもと・いくよ）

1974年生。立命館大学大学院文学研究科史学専攻日本史専修博士後期課程修了，博士（文学）。横浜市立大学国際教養学部教授。  
『中世主権と即位灌頂』（森話社，2005年），『儀礼の力』〔共著編〕（法蔵館，2010年），『天皇の即位儀礼と神仏』（吉川弘文館，2017年）。

小川豊生（おがわ・とよお）

1953年生。早稲田大学大学院文学研究科博士課程前期修了，博士（文学）。摂南大学国際言語文化研究科講師（元同大学外国語学部教授）。  
『日本古典偽書叢刊 第1巻』〔編著〕（現代思潮新社，2004年），『中世日本の神話・文字・身体』（森話社，2014年）。

鈴木耕太郎（すずき・こうたろう）

1981年生。立命館大学大学院文学研究科日本文学専修博士後期課程修了，博士（文学）。公立大学法人高崎経済大学地域政策学部講師。  
『京都まちかど遺産めぐり』〔共編著〕（ナカニシヤ出版，2014年），「感応する牛頭天王——『阿婆縛抄』所収「感応寺縁起」を読む」（『日本文学』65巻7号，2016年），『牛頭天王信仰の中世』（法蔵館，2019年）。

齋藤公太（さいとう・こうた）

1986年生。東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻博士課程修了，博士（文学）。神戸大学大学院人文学研究科講師。  
「『国家神道』と教育勅語——その狭間にあるもの」（岩波書店編集部編『徹底検証 教育勅語と日本社会——いま、歴史から考える』岩波書店，2017年），「随神の気風——植村正久における神道観の諸相」（『國學院大學研究開発推進機構紀要』11号，2019年），『「神国」の正統論——『神皇正統記』受容の近世・近代』（ペリかん社，2019年）。

伊藤 聡 (いとう・さとし)

1961年生。早稲田大学大学院文学研究科東洋哲学専修満期退学，博士（文学）。茨城大学人文社会科学部教授。

『中世天照大神信仰の研究』（法藏館，2011年），『神道の形成と中世神話』（吉川弘文館，2016年），『神道の中世——伊勢神宮・吉田神社・中世日本紀』（中央公論新社，2020年）。

松川 雅信 (まつかわ・まさのぶ)

1989年生。立命館大学大学院文学研究科博士後期課程修了，博士（文学）。日本学術振興会特別研究員 PD。

「稲葉黙齋の喪礼実践論——徂徠学批判・仏教認識に注目して」〔第1回日本経済思想史学会賞受賞〕（『日本思想史学』50号，2018年），「近世日本の儒教儀礼と儒者——「東アジア思想史」のための試論的考察」（桂島宣弘ほか編『東アジア 遭遇する知と日本——トランスナショナルな思想史の試み』文理閣，2019年），「埋葬と『家礼』——近世日本の葬送文化における儒教と仏教」〔韓国語〕（『共存の人間学』創刊号，全州大学校韓国古典学研究所，2019年）。

前田 勉 (まえだ・つとむ)

1956年生。東北大学大学院博士後期課程単位取得退学，博士（文学）。愛知教育大学特別教授。

『近世神道と国学』（ペリかん社，2002年），『兵学と朱子学・蘭学・国学』（平凡社選書，2006年），『江戸教育思想史研究』（思文閣出版，2016年）。

平藤喜久子 (ひらふじ・きくこ)

1972年生。学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程修了，博士（日本語日本文学）。國學院大學教授。

『神話学と日本の神々』（弘文堂，2004年），『神の文化史事典』〔共編著〕（白水社，2013年），『いきもので読む，日本の神話』（東洋館出版，2019年）。

権 東祐 (くおん・とんう)

1972年生。佛教大学文学研究科仏教文化専攻修了，博士（文学）。靈山禅学大学校副教授。

『スサノヲの変貌——古代から中世へ』（佛教大学研究叢書，法藏館，2013年），「神話解釈史から読み取る富士山の祭神変貌論——その歴史叙述を中心として」（『日本研究』56号，2017年），「教派神道の朝鮮布教からみる近代神道の様相——神道修成派・黒住教・神宮教を事例に」（『宗教研究』92巻1輯，2018年）。

田中 聡 (たなか・さとし)

1964年生。立命館大学大学院博士後期課程文学研究科日本史学専修単位取得退学，修士（文学）。立命館大学文学部教授。

『差別と向き合うマンガたち』〔共著〕（臨川書店，2007年），『日本古代の自他認識』（塙書房，2015年），『教養のための現代史入門』〔共編著〕（ミネルヴァ書房，2015年）。

# 索引

\*本索引は、本文中の人名・事項について重要度の高いものを検索するために作成した。  
したがって網羅的な索引とはなっていない。

## 【人 名】

### あ行

- |   |   |  |
|---|---|--|
| アンドリユー・ラング  | 352   | 287, 290, 298, 304, 305                  |
| チェンバレン  | 339, 342, 343, 346, 349～<br>51, 354, 410                    | イザナミ (伊弉冉尊)                              |
| タイラー  | 341～3, 352  | 6, 7, 255, 257～9, 298                    |
| マックス・ミュラー   | 341～3, 352, 355～7   | 井沢蟠竜 319                                 |
| アーネスト・サトウ   | 342, 350  | 石出帯刀 230, 237, 239, 240                  |
| 浅見綱斎  | 254, 263  | 石母田正 419, 420, 424                       |
| 安曇の磯良   | 116～8   | 伊勢津彦 139, 140                            |
| 跡部良顕  | 236, 259, 319   | 市川匡麻呂 289                                |
| 姉崎正治  | 355, 356, 413, 416  | 一条家経 81～4, 148                           |
| 阿部泰郎  | 123, 124, 134<br>213  | 一条兼良                                     |
| アマテラス(天照大神、天照太神、天照大御神)  | 82～5, 91～3, 171, 192, 195, 283, 287～94, 298～302, 304～6, 308 | 一条実経 79, 86, 87, 89, 90, 91, 185, 193～7  |
| アメノミナカヌシ(天御中主尊、天御中主、天御中主神、天之御中主神)                                 | 166, 167, 175, 177, 178                                     | 81, 82, 84, 148, 149, 189, 192, 195      |
| アメユズルヒアメノサギリクニユズルサギリ(天譲日天狭霧地禪月地狭霧尊, 天譲日天狭霧国譲日国狭霧尊, 天譲日国禪月天狭霧国狭霧尊) | 175, 176, 178, 180  | 井筒俊彦 174                                 |
| 新井白石  | 255, 371, 372   | 伊藤東涯 262                                 |
| 荒木田匡興   | 112   | 伊藤博文 332                                 |
| 飯田武郷  | 295, 354  | 伊藤正義 123                                 |
| イザナキ(伊弉諾、伊弉諾尊、伊弉諾神、伊邪那岐神)   | 6, 7, 255, 258, 259, 283,                                   | 井上哲次郎 353                                |
|   |   | 今泉定助 400                                 |
|   |   | 今出河文齋 241, 243                           |
|   |   | 岩田勝 65                                   |
|   |   | 忌部色夫知 235, 244                           |
|   |   | 忌部正通 185, 224, 225, 398                  |
|   |   | 上田秋成 287, 289, 291, 374, 375             |
|   |   | 植田良背 239, 240, 241                       |
|   |   | 上田百樹 278                                 |
|   |   | ウガヤフキアヘズ 115～9                           |
|   |   | 卜部兼方 79, 81, 82, 147, 148, 189, 398      |
|   |   | 卜部兼文 81～4, 147～9, 189                    |
|   |   | 円位法師 149                                 |
|   |   | 圓悟克勤 180                                 |
|   |   | 応神天皇                                     |
|   |   | 105, 107, 111～3, 115, 116, 261, 262, 266 |
|   |   | 大海人皇子 57                                 |
|   |   | 大神田麻呂 109                                |
|   |   | 大神諸男 109                                 |

正親町公通 205, 212, 239  
 大國隆正 301, 302, 329  
 大津皇子 48, 52  
 大中臣氏 159, 160  
 大中臣精長 237  
 大中臣輔親 160  
 大日靈貴 145  
 オオヒルメ(オオヒルメムチ、大日靈貴、  
 大日靈貴) 145~7, 149~57, 160, 161  
 大山為起 214  
 岡田莊司 396, 397  
 荻生徂徠 265, 267~9, 284, 285  
 尾高朝雄 315  
 落合直澄 376, 378  
 落合博志 124  
 大神比義 102, 109, 111  
 オホクニヌシ 73  
 オホナムチ 69, 70, 71, 73  
 折口信夫  
 87, 96, 165, 178, 183, 184, 384~402

## か行

荷田春満 212  
 仮名垣魯文 330  
 金子光晴 332  
 龜山天皇 160  
 河継 155  
 川面凡児 399, 400  
 観勒 22, 36  
 北畠親房 167, 172, 176, 317  
 北山茂夫 421  
 紀繁継 376, 378  
 鳩巢 265  
 行基 154  
 清原宣賢 226  
 清磨 160  
 欽明(欽明朝) 255  
 櫛田良洪 124  
 國常立(國常立尊)  
 6, 7, 167, 175, 177, 178, 207, 211  
 久保田収 123, 124, 134  
 久米邦武 365, 372, 377, 380, 409~13  
 黒板勝美 391~3  
 黒住宗忠 366

綱齋 264, 265  
 慶暹 160  
 契沖 218  
 元正天皇 33, 42  
 劔阿 151  
 元明天皇 279  
 皇極天皇 38, 40  
 後宇多法皇 149  
 神野志隆光 68  
 弘法大師 151, 155  
 後円融天皇 129  
 後白河院 149  
 牛頭天王 80, 194, 369~71, 376, 378  
 後醍醐天皇 153  
 小中村清矩 409  
 小中村義象 410  
 虚無大元尊神 93, 94

## さ行

佐藤直方 320  
 佐藤信淵 301  
 佐野経彦 363~5, 368~70, 377~82  
 持統天皇(持統朝) 29, 33, 47  
 渋川春海 237, 240  
 慈遍 177, 178, 182, 185, 211  
 清水以義 254  
 淳仁天皇 39, 40  
 春璫 79, 82, 112, 124, 126, 135, 138, 141  
 証禅 160  
 聖徳太子 151, 255, 256, 259~62, 266  
 舒明天皇 40  
 神吽 102, 109, 112  
 神功皇后 105, 106, 107, 111, 115~8  
 推古天皇 25, 29, 30, 40  
 スサノヲ(素戔嗚尊)  
 83, 191~7, 298, 301, 304  
 崇峻天皇 256  
 鈴木重胤 96, 275, 298~302, 304~9  
 鈴木貞斎 253~70  
 蘇我馬子 256, 266  
 蘇民将来 117

## た行

ダーウィン 340

醍醐天皇	151
大日如来	
149, 150, 153~5, 157, 158, 160, 161	
第六天魔王	129, 135
高木敏雄	355, 356, 413, 416
高橋典幸	123
高山樗牛	355, 356, 413
田口卯吉	409, 413
太宰春台	265, 267
多田南嶺(義俊)	228, 255
谷川士清	203, 218, 244, 282, 283, 320
谷秦山	237, 254
玉木正英	205, 215, 236, 238, 321
檀君	369, 370, 373~6, 378, 380, 381
潮音道海	231, 233
通海	151, 152, 157~60
津田左右吉	316, 325, 391~4, 407, 412, 414~6, 418, 420~2, 424, 425
椿井政隆	244
出口延佳	211
天智天皇	57
天武天皇	33, 40, 41, 51, 278~80, 282
道祥	79, 112, 124~6, 135~9, 141
藤貞幹	372
藤間生大	421
徳川家康	266, 268
徳川光圀	206, 372, 373, 377
舍人親王	33, 39~42, 205, 208, 211, 255, 257, 258, 260
伴部安崇	235
な行	
那珂通世	409, 410
梨木祐之	237
那波魯堂	265
二条良基	89
日初	374~7
忍勝	153
は行	
服部中庸	291, 302, 348, 349
林羅山	232, 238, 317
原克昭	128
伴蒿蹊	373~7

稗田阿礼	279
ヒコホホデミ	115~7
平田篤胤	96, 203, 295~7, 305, 328, 347, 348, 352, 354
平田鏞胤	296
ヒルコ	161
ビルシャナ	153, 154
ヒルメ	153, 154
広田担斎	229~31, 233~5, 238, 241, 246
裴寛紋	324
保科正之	206, 237
星野恒	365, 372, 377, 378, 380
ホノニニギ	72, 87
ま行	
増穂残口	327
松岡雄淵	322
真野時綱	372, 373
三品彰英	421~5
源雅言	148
三宅尚斎	259
三宅米吉	409, 413
室鳩巢	254, 266, 364
本居宣長	216, 218, 220, 275~8, 280, 281, 290, 294, 323~7, 344, 348, 349, 352, 354, 359, 385
森尚謙	246
守井左京	212, 213
や行	
柳田國男	356, 391, 396, 413
山鹿素行	229, 240, 241, 318
山口春水	322
山崎闇斎	185, 203, 204, 208, 211, 226, 235, 237, 239, 253, 254, 257, 259, 260, 281, 283, 293, 319
山路愛山	412, 415, 416, 418
山本復斎	254, 255
融慶	124~6
吉川惟足	206, 207, 209, 237, 318
吉田兼俱	79, 81, 90~6, 178, 185, 207, 217, 226, 238, 281, 285, 370
吉見幸和	219, 282, 322
頼永	160

## ら行

ラッファエーレ・ペッタツォーニ	166
ラフカディオ・ハーン	343
良遍	196
レヴィ＝ストロース	358
路通	245

## わ行

若林強斎	206, 215, 216, 219, 254, 314, 322
度会家行	172, 175, 179, 181, 182
度会常昌(常良)	153, 182
度会延佳	237
度会行忠	180, 185

## 【事項名】

## あ行

アカデミズム史学	391, 392, 394
葦原中国	68, 69, 71
アニミズム	342
天津祝詞	307, 308
考古学的発掘	53
或本	3, 12~4, 17, 20
關齋学派	257, 259, 263, 264
異界訪問譚	66, 67, 73
異国降伏	110~4, 119
伊勢神道	165
伊勢太神宮瑞柏鎮守仙宮院秘文	156, 156
伊勢国風土記	138, 140, 141
伊勢本『日本書紀』	122, 136
『伊勢物語』注釈	137, 138
伊勢両宮曼荼羅	158
一書	3~7, 9~11, 14, 15, 17~20
一本	3, 12~4, 17, 20
イニシエーション	66
因位	113
忌部八箇祝詞道別草	235, 237
陰陽論	276, 277, 280, 282
卜部家	204
韞蔵録	321
英雄(英雄時代)	419~21, 424
圓悟必要	180
王権の中断	52
応仁・文明の乱	90, 92, 94
小治田寺	39
小墾田宮	36, 40, 42
大殿	54
正寝	55

## か行

華夷秩序	50
懐風藻	41
漢意	276, 284, 286, 288
漢書	22, 34, 35

閑田耕筆	373
神字日文伝	347
神嘗祭	307
祇園社	191, 194
起源神話	274, 290~2, 302, 306, 308~10
起源の反復	62
既存者	178, 183, 184
橘家神道	293
紀年	409~11, 424
旧辞	9~11, 13, 15, 17, 19
旧本	3, 12~4, 17, 20
教説山房夜話	331
共同体	417~9, 422, 424, 425
教派神道	364, 367, 370, 381
玉籤集	236
近世神話	275, 280, 287, 294, 297, 303, 309, 310, 385
公事根源	194
くずばな(くず花)	323, 326, 327
黒住教	365~8, 381
外宮	155, 156, 158, 159
月食	25, 32
元元集	172, 176
建国祭	417
建国神話	407, 408, 412, 415, 417, 419, 424
皇統譜	51
古今神学類聚鈔	372
国学	204
国学弁疑	322
国体	393, 394, 400
国体の本義	314
国民	396, 415, 416, 418, 422
国民化	389
国民国家	396
国民史	412, 417
国民性	389
国民ナショナリズム	393
古語拾遺	238, 243
古事記	4, 5, 20, 61, 83, 167, 181, 276, 278, 280, 281, 284, 323, 407, 409, 411, 416, 417, 418, 420, 422
古事記伝	275~7, 284, 286~8, 291, 292, 295, 297, 303, 309, 310, 325, 348, 349, 385

古史通或問	371, 372
古史伝	294, 296, 303, 329
牛頭山	372, 376~8
古道大意	328
護法資治論	246
珊瑚集	172
良背語録	239, 241
根葉花実論	285

さ行

祭儀神話論	425
嵯峨天皇日本紀再治説	128, 131
雑話統録	322
三国遺事	375, 376
三国観(仏教的三国観)	285, 286, 292
残酷と非情	333
三種神器	260~4, 269
三条教の捷徑	331
三則示蒙	330
三大考	291, 293, 348
色弗口訣	241, 244
氏族共同体	424
七曜曆	43
誅	48
志武宇地話	232, 233
釈日本紀	79~83, 86~8, 90, 94, 95, 147, 151, 153, 189, 190~4, 196, 285, 369, 371, 377, 398
儒家神道	207
儒教	261, 262, 264
修験修要秘決集	169
朱子学	208, 209, 214, 253, 254, 257~9, 264, 266~8, 270
種の起源	340
紹運篇	172, 176
上古	253, 261, 262, 264, 266, 267, 269, 270
衝口発	372
書記集解	282
続千載和歌集	149
続日本紀	26, 29, 38, 39
讖緯説	410
神祇灌頂	125
神宮奉敬会	381
神国加魔祓	327

- 泰山集 230, 231, 233, 237  
 神字 344, 347~9, 359  
 人種論 412  
 晋書 23, 43, 227  
 神書閑塵 79, 80, 90, 91  
 神代  
   103, 106, 107, 114~9, 408~11, 413, 414  
 神代紀鬢華山蔭 277, 279  
 神代系図 174  
 神代史 414, 416, 417, 424, 425  
 神代卷 205, 208, 213, 215, 217, 219, 253,  
   254, 255, 257~60, 262~4, 269, 270  
 神代卷家伝聞書 318  
 神代巻口訣 224, 226, 228, 231, 234, 235,  
   237, 238, 241~7  
 神代巻惟足講説 318  
 神代巻存疑 254~7, 259, 264  
 神代巻風葉集 226  
 神代巻藻塩草 211, 217  
 神道 253, 254, 257, 259~66, 268~70  
 神道天瓊矛記 319  
 神道学則日本魂 323  
 神道五部書 305  
 神道大意 178, 322  
 神道伝授 318  
 神道秘伝折中俗解 317  
 神統譜 50, 51  
 神皇系図 167  
 神皇正統記 167, 317, 320  
 神秘主義 274  
 人民 415, 416, 419  
 人民史 412, 415, 417  
 神理教 363, 368, 370, 378~81  
 神話学 339~43, 351~3, 355~8, 391, 392  
 垂加翁神説 319  
 垂加翁神道教伝 236  
 垂加神道 203, 204, 212, 216, 217, 219,  
   220, 253~5, 259, 260, 262~5, 281~3,  
   286, 293, 294  
 垂加神道初重伝 320  
 政事要略 112  
 西洋天文学 291, 292, 301  
 殺生罪業 108, 112, 113  
 千載和歌集 149  
 先代旧事本紀 172, 175, 238, 255  
 先代旧事本紀大成経 231  
 遷都 52  
 即位灌頂 88, 89  
 俗神道 165, 172, 177, 182  
 曾戸茂梨 368~72, 374, 376~8  
 蘇塗 371, 372  
 徂徠学 254, 265, 267, 268, 270  
 た行  
 太極図 175  
 太古 411  
 大嘗祭 82, 83, 87~9, 308, 396~401  
 太神宮参詣記 157~9  
 大神宮両宮之御事 153, 182  
 大宗秘府 180  
 胎内五位 137, 138  
 大日印文説 131  
 大日の印文 130  
 大日本国説 130, 131  
 第六天魔王神話 131  
 多元的進化説 424  
 謫居童間 318  
 脱魂型 65  
 玉くしげ 324  
 治国利民法 133, 135, 138  
 注釈 79~81, 90, 93, 95, 384, 385, 388,  
   391, 398  
 注釈知 80, 96  
 中世神話 80, 88, 274, 385  
 中世日本紀 79~81, 96, 101~8, 114,  
   117, 119, 190, 191, 193, 274, 384  
 中朝事実 318  
 帝紀 9~11, 13, 15~7, 19  
 帝国 50  
 帝国紀年私案 376, 378  
 帝国憲法義解 332  
 定住革命 54  
 デーヴァナーガリー 345, 348, 349, 359  
 天照教 381  
 天人唯一 212, 213, 215, 216  
 天孫降臨神話 170  
 天地開闢 170  
 天地神祇審鎮要記 178

天地靈覚秘書・仙宮秘文	156
天地麗気記	154
天地麗気府録	152, 169, 181
天皇	
82, 88, 389, 391, 392, 394, 395, 397~400	
天皇靈	54, 400, 401
天武殯宮儀礼	48
天文密奏	29, 32, 34, 35
天理教	365, 367, 368, 381
東国通鑑	372, 376, 377
徳川実紀	232
土金之伝	209
飛び神明	92
豊葦原神風和記	177, 178

な行

内宮	155, 156, 158, 159
直毘靈	325, 326, 359
中臣祓訓解	150, 151, 155, 160
中臣祓風水草	226, 235
新嘗祭	307
日露戦争	363, 365~8
日食	23, 36, 40
日鮮同祖論	365, 372, 373, 377, 380
日本紀講	81, 84, 85, 300, 385, 388
日本紀講筵	189
日本紀私記	189
日本紀之家	82, 83, 129
日本春秋	374, 375
日本書紀開書	123, 128, 131, 135
日本書紀纂疏	79, 80, 86~8, 94, 95, 193, 195~7, 227, 228
日本書紀私記	153
日本書紀私見聞	
122~7, 129, 130, 135, 136, 140, 141	
日本書紀通証	218, 244, 282, 320
日本書紀伝	275, 294~7, 299
日本書紀卷第一開書	196
日本歴史教程	417, 421
蓴菜草子	228
根堅州国	69, 70, 73
年輪の考察	422, 423
祝詞講義	306

は行

配所残筆	229, 230, 240
八幡宇佐宮御託宣集	102
八幡縁起	104~7
八幡愚童訓	118
八幡信仰	101
八箇祝詞	234, 235, 237, 238, 241~4
八箇祝詞国字解	235
隼人征討	108, 112
盤古神話	148
比較神話	393
比較神話学	391
日嗣	49
「日の神」論争	287, 289, 293
秘本玉くしげ	327
神籬教	381
譬喩	413
譬喩論	415, 420
憑依型	65
風葉集	237
扶桑護仏神論	231, 233
扶桑略記	107, 108, 111, 112
峯中秘伝	169
「文化範囲」論	424
別卷	3, 14, 15, 17
別本	3, 12~4, 17, 20
宝基本記	246
放生会	108, 112
報本反始	62
法楽舎	160
ほかひびと	384, 395, 396
ホモ・モビリティ論	63
本学挙要	329
本紀	256, 257, 260, 262, 266, 268
本地垂迹	177
本地垂迹思想	182

ま行

魔王	130
真床追衾	87~9
まれびと	384, 387~90, 395, 401
万葉集	14~7, 21, 25
みこともち	384, 386

禊 283, 287, 288, 290, 299, 303~5  
 三角柏伝記 155, 160  
 民族 410, 411, 415, 418  
 民俗学 356, 391, 392, 394, 399, 400, 402  
 産霊 183  
 武搭天神 369, 370  
 明良洪範 230  
 蒙古襲来 85  
 殯 47  
 もがり死 60  
 殯宮儀礼 48  
 モモソヒメ 66

## や行

八坂社旧記集録 369, 376, 377, 378  
 大和葛城宝山記 154, 166  
 やまところ 330  
 ヤマトヒメ 66  
 倭姫命世記 246  
 唯一神道名法要集 242

吉田神道 205, 209, 281  
 吉田家 286  
 黄泉国 67~9, 73  
 夜聖 245

## ら行

律令天皇制システム 53  
 両部神道 165, 166  
 誅 50, 58  
 類聚国史 108  
 類聚神祇本源 172, 175, 179  
 麗氣灌頂 170, 171  
 麗氣灌頂口決 151, 153, 157  
 麗氣記 125, 151, 152, 168, 170, 246  
 靈行 114~9  
 天地靈覚秘書 156

## わ行

海神の宮 72, 73  
 礼(ゐや) 49, 50

にほんしよき ねんし と  
日本書紀1300年史を問う

---

2020（令和2）年6月20日発行

編者 山下久夫・斎藤英喜

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

---

装 幀 上野かおる（鷲草デザイン事務所）

印 刷 株式会社 図書印刷 同朋舎  
製 本

---

© Printed in Japan 2020 ISBN978-4-7842-1990-2 C3021